保育計画成果報告書

法人名	特定非営利活動法人　なのはな
施設名	なのはなガーデン
報告者（役職）	末永　幸枝　　（園長）
住所・連絡先	静岡市葵区川越町４番５号
	☎　　054-253-0443 E-mail　nanohana140318@cy.tnc.ne.jp

○タイトル（保育計画）

防災に備えての環境づくり　～　日常保育と防災の融合を目指して　～

○主な助成備品

おでかけひなん車防災仕様、災害時貯水プール　オーバルプール 災害用紫外線吸収遮断メッシュシート、防災備品収納ベンチ、乳児用防災ずきん 避難用抱っこひも 2WAY、特定小電力トランシーバー、防災持ち出し袋

１．保育計画策定の目的

通常、防災訓練は、日を決め、プログラムを作り、結果どうだったのか？を考え、次回に生かすということが多いです。しかし、乳児の子ども達の日課は、朝当園して遊び、9 時半から午前中は散歩、水、砂泥遊びを楽しみ、昼食・お昼寝・おやつ・午後の遊び（室内、園庭〈水・砂・泥〉、お散歩など）が日課となっています。まして言葉で自分の思いや指示内容を理解して、緊急時に動くことが難しいことは、3.11 の学びからも強く感じています。そこで保育計画の中に災害時に使う防災用品を取込み、発達からみても子どもが道具に慣れていく、保育者の指導に生かすことを目的に１年かけて実践してきました。

① 避難車
　散歩に日常使用してスムーズに乗り降りができることをねらう

② 貯水プール・紫外線吸収遮断メッシュシート
　プール使用の際、すみやかに貯水タンクに使えるよう保育者が慣れる
　真夏に強い紫外線から子どもたちを守る

③ 2WAY おんぶひも
　日常保育の中で使い、おんぶすることに慣れる

④ トランシーバー
　園携帯からトランシーバーに替え、散歩時に持参することで、保育者が使用に慣れる

⑤ 防災用品収納ベンチ・防災持ち出し袋
　月１回の防災訓練の際、持ち出し訓練をする

⑥　防災ずきん

遊びの中で使用し、防災ずきんに慣れる

２．具体的な実施内容

①避難車

散歩に出かける時に、避難車を出し、
とびらを開けると、喜んで子どもたちが
自分で乗り降りを楽しむようになる。

②貯水プール・紫外線吸収遮断メッシュシート

昨年の夏、異常な暑さの時期、遮断メッシュシートで
日陰を作り、その下でプールを出し、水あそびを楽し
んだ。保育者もプールに慣れることができた。

③2WAY おんぶひも

抱っこが多い現代、おんぶに慣れていない子も多いので、
普段の生活の中で子どもをあやす時に使用したり、0 歳児
のお散歩に使用していく。保育士も使用法に慣れる。

④トランシーバー

災害時携帯電話が使用不可を想定し、
散歩に出かけた時に各組の場所を確認しあった。

⑤ベンチ

ベンチの中に防災持ち出し袋、防災ずきん、
拡声器、おんぶひもを収納してあり、すぐ
に手が届くようにしている。
ベンチには、子どもたちが座って絵本を読んだり、
ジャンプをしたり、ごっこ遊びとして遊ぶことを
楽しみにしている姿がある。

⑦ 防災ずきん

ずきんをかぶって、消防士さんごっごをしたり、ソリあそびや座布団にして、子どもたちが、防災ずきんに触れる機会を多くして遊ぶことでイヤがることがなくなった。

３．その成果と評価

防災用品というと、部屋の片隅にまとめてあり、避難訓練の時だけと言うイメージだが、普段の生活の中に取り入れることにより、子どもたちも抵抗なく、使用することができている。また保育士もいざという時に使い方がわからないということがないように、普段から使い慣れることにより、緊急時、あわてることなくスムーズに子どもへの対応もできると予想している。

４．今後の課題と展望

1. これからも、保育の中に、防災用品を取り入れていき、子どもも保育士もあわてることなく、落ち着いて行動できるようにしていきたいと思います。

2. 「ランニングストック」の実践

防災食として１年に１回給食に食べていましたが、防災食ではなく、普段の生活の中にある缶詰や乾物を使って防災食にして、また水も〇年間保存の水ではなく通常に売っている水でいいという考えです。栄養士ともよく話し合い、それらを上手に使い、いくつかのメニューを考え、1か月か2ヶ月に1度、給食に使用することで、回転を早くして、防災食も「特別」ではなく、日常の中で考えていき、考え出したメニューをまとめ、父母の皆さんにお配りする冊子などができたらいいと考えています。

最後に緊急時と日常の融合を考える機会を作って下さった、第一生命財団「待機児童対策・保育所等助成事業」の助成に関して、心よりお礼を申し上げます。

以　上